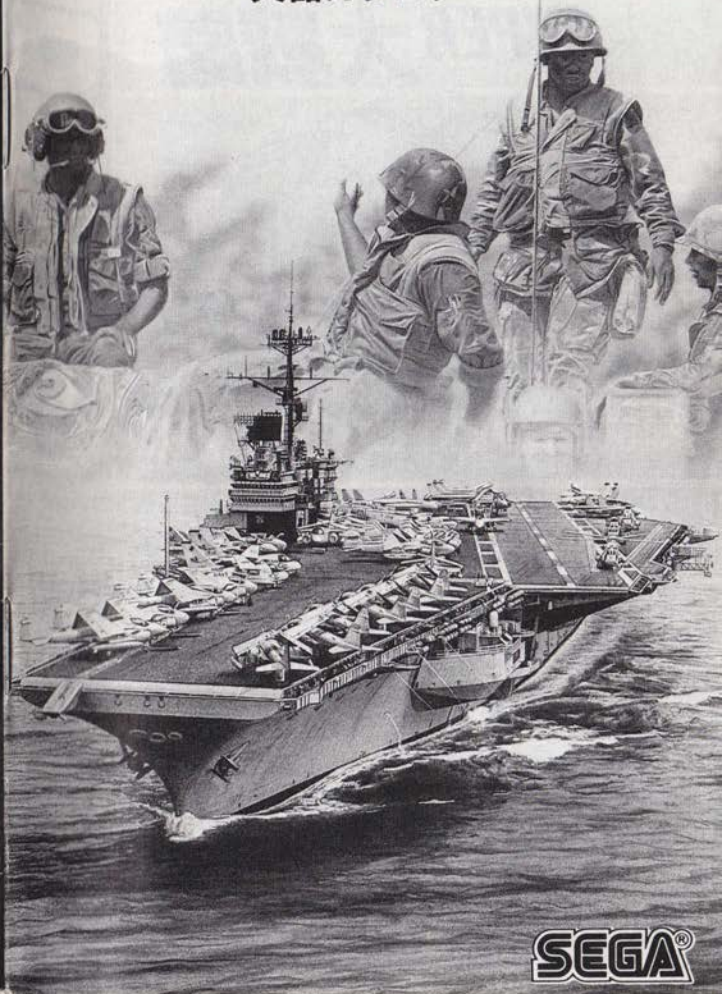


SUPER 大戦略

兵器カタログ



SEGA®

EmuMovies

株式会社 セガ・エンタープライゼス

SUPER 大戦略



「SUPER 大戦略」のおもしろさは、1つにこのゲームのシステムの素晴らしさにあります。そしてもう1つ、忘れてはいけな^{はず}いのは125種類^{しゆるい}におよぶバラエティーにとんだ兵器^{へいき}たちです。これら^{つか}をどう使うかによって、ゲームの進み具合^{すす}から、戦い^{たたか}方^{かた}まですべて変わってきます。この本では、「SUPER 大戦略」に登場するユニットのモデルとなった実在の兵器125種類^{しゆるい}についての簡単な説明^{せつめい}と、ゲーム上^{じゆう}でのユニットのデータ^{けいさ}を掲載^{けいさい}しています。また、巻末^{かんまつ}には搭載兵器^{とうざいへいき}の一覧表^{いちらんひょう}を載せました。どうぞ「SUPER 大戦略」の世界を知る上の手助け^{てすけ}としてください。

INDEX

F	せんとうき 戦闘機ユニット	6
V	すいちよくりちやくりき VTOL(垂直離着陸機)ユニット	12
A	こうげきき 攻撃機ユニット	14
B/C	ばくげきき しえんき 爆撃機/支援機ユニット	20
H	ヘリコプターユニット	22
P	せんしや 戦車ユニット	28
R	たいくうしやりよう 対空車両ユニット	34
S/M	そうこうしやりよう へいいんゆそうしやりよう 装甲車両/兵員輸送車両ユニット	41
U	じそうほう 自走砲ユニット	48
Q/T/E/I	ほかちじよう その他地上ユニット	52
D	かんせん 艦船ユニット	56

兵器データ表の見方

ユニットの基本データを載せています

	①	②	③	④	⑤	⑥
	R	I	①	10	40	50
⑦	180\$		30K		60×7	⑧
⑩	1	2	3	4	5	6
						7
						8
						9
						10
						11
						12

①兵器タイプ

②輸送可能兵器タイプ：そのユニットに搭載可能なユニット

I：Iユニット Q：Q・Iユニット S：地上ユニット
 X：艦載機 (A, Fユニットの一部とV・Hユニット=56ページ)
 V：V・Hユニット -：なし

③兵器移動パターン(=取扱説明書：23ページ)

航空機	①	キャタピラ・浮	④	砲	⑦	艦船	⑩
キャタピラ・潜	②	タイヤ・通	⑤	歩兵	⑧	キャタピラ・両	⑪
キャタピラ・通	③	タイヤ・浮	⑥	鉄道	⑨		

④移動力

- ⑤対空防御力：航空ユニットからの攻撃に対する防御力
- ⑥対地防御力：地上ユニットからの攻撃に対する防御力
- ⑦生産費：ユニットを1機生産するのに使う軍事費
- ⑧生産工業力：ユニットを1機生産するのに使う工業力
- ⑨燃料：搭載燃料 × 燃料を1補充するのにかかる軍事費
- ⑩生産可能国

1:USA (アメリカ)	7:CHINA (中国)
2:W.GERMAN (西ドイツ)	8:USSR (ソビエト)
3:BRITAIN (イギリス)	9:WARSAW (ワルシャワ条約機構)
4:FRANCE (フランス)	10:NATO (北大西洋条約機構)
5:ISRAEL (イスラエル)	11:EAST (東側諸国)
6:JAPAN (日本)	12:BEGINNER (初心者)



航空ユニット

AIR FORCE

CONTENTS

F	せん 戦	とう 闘	き 機	_____	6
V	VTOL		機	_____	12
A	こう 攻	げき 撃	機	_____	14
B	ばく 爆	げき 撃	機	_____	20
C	し 支	えん 援	機	_____	21
H	ヘリコプター			_____	22

Fユニット

せんとう き
戦闘機

「空を制する者は、戦いに勝利するノ」これは、第二次世界大戦において証明された、一つの真理である。

長い時代を経たとはいえ、今でもこの言葉は生きています。スピード、対空攻撃力、対空防御力と3拍子そろった空戦の主演。それが戦闘機だノ

だが、空では無敵の戦闘機も対地防御力が弱いものが多い、対空車両に対しては分の悪い戦いを強いられてしまう。戦闘機は特に高価なものだけに、安い対空車両にやられることだけは避けなければならない。

マクダネルダグラス F-4 ファントム
McDONNELL DOUGLAS F-4 PHANTOM II

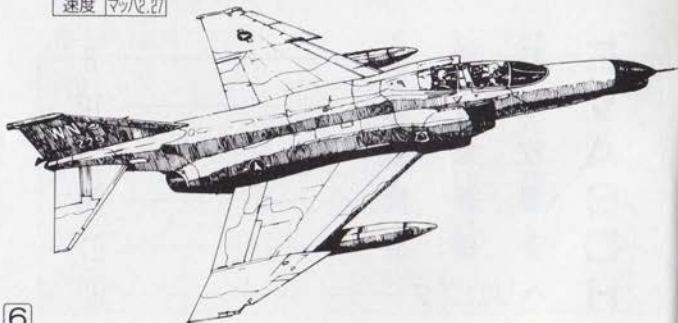
にしがわしよこく せいしよこくに おいて とうご 20 ねんかん に わ

って 最も 重要な 位置 を 占めて きた

戦闘機であり、1990年代も航空戦闘

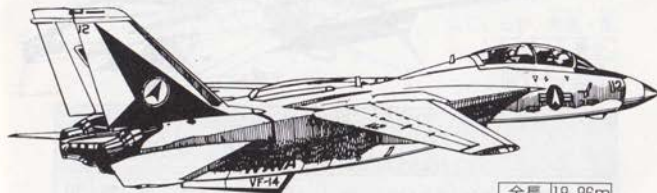
の中核として活躍が期待される大型万能機。もともとアメリカ海軍の艦上戦闘機として開発されたが、その卓越した性能により各国に採用され、総生産数は5117機に達した。現在もなお優れた能力を活かすため、いくつかの改良計画が進められている。

全長 18.60m
全幅 11.79m
速度 マッハ2.27

グラマン F-14 トムキャット
GRUMMAN F-14 TOMCAT

この戦闘機は、F-4ファントムに代わるアメリカ海軍の艦上戦闘機として開発された。特徴は自動可変翼を持つことに加え、その兵装にもある。搭載するフェニックスミサイルは、200km離れた6機の敵を同時に攻撃できるのである。現在計画中のD型は、この機体に推力向上したエンジンを積み、2000年代にかけても第一線で活躍を期待されている。

F	-	①	15	65	20
400\$			35K		60×11
1					



全長 18.86m
全幅 19.54m
速度 マッハ2.34

マクダネルダグラス F-15 イーグル
McDONNELL DOUGLAS F-15 EAGLE

F-15イーグルは、本来制空戦闘を主任務に開発されたアメリカ空軍の大型戦闘機である。だが、その余

裕ある性能を活かして地上攻撃装備を施したF-15Eストライクイーグルとしても採用された。その優秀な性能は、きわめて強力なエンジンと、他の西側戦闘機のほとんどをしのご電子装備などに負うものだが、それだけに高価である。

全長 19.50m
全幅 13.08m
速度 マッハ2.50

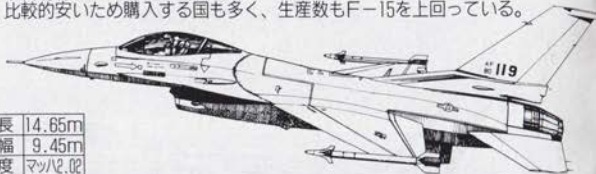


ジェネラル ダイナミクス F-16 ファイティングファルコン GENERAL DYNAMICS F-16 FIGHTING FALCON

F-16誕生の原因は、アメリカ空軍の軽量戦闘機計画だった。大推力

のF100エンジン1機を搭載し、フライ・バイ・ワイヤ方式の操縦装置を持ったこの機体は、小型機にも関わらず搭載能力が大きく、他に列を見ない9Gの旋回など優れた能力を持つ。比較的安いため購入する国も多く、生産数もF-15を上回っている。

全長 14.65m
全幅 9.45m
速度 マッハ2.02



F	-	①	14	75	20
250\$			40K		70×5
1			5		10 12

ダッソー ミラージュ III DASSAULT MIRAGE III

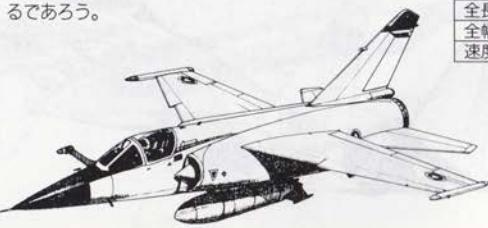
米のF-104 やソ連のMiG-21と並び、1960から70年代の代表的な小型戦闘機である。デルタ翼を特徴

とするこの戦闘機は中東戦争においてその能力を実証し、世界の注目を集め20カ国へ1410機も輸出された。今日フランス空軍からは退役しつつあるが、南米諸国の空軍は近代改修化を図っている。

F	-	①	15	35	10
160\$			20K		60×5
		4			10

ダッソー ミラージュ FI DASSAULT MIRAGE FI

フランス空軍の主力戦闘機。ミラージュシリーズの中で本機だけがデルタ翼でないが、これはSTOL性能を重視したためである。また、これにより行動半径や運動性能も向上した。すでに新型のミラージュ2000の配備が始まっているが、空戦能力と対地支援能力、STOL性のバランスの取れた戦闘機として、今後も重用されるであろう。



全長 15.00m
全幅 8.40m
速度 マッハ2.20

F	-	①	15	50	15
180\$			30K		70×5
		4			10

ダッソー ミラージュ 2000 DASSAULT MIRAGE 2000

全長 14.35m
全幅 9.00m
速度 マッハ2.20



米のF-16やソ連のMiG-23と並び、今日での代表的な小型戦闘機である。ミラージュIIIと外見にはよく似ているが、性能・能力は格段に異なり、フライ・バイ・ワイヤや

F	-	①	15	65	10
250\$			40K		50×7
		4			

CCV技術により、空中機動力は大幅に改善されている。しかしデルタ翼のため、対地支援には向いていない。

パナビア 200 トーネード (ADV) PANAVIA 200 TORNADO

トーネードは、イギリス、西ドイツ、イタリアの3国が共同開発した、MRCA (多目的戦闘機) であ

り、IDS (阻止攻撃型) とADV (迎撃型) の2種がある。ADVはイギリスのみが配備しており、フォックスハンター要撃用レーダーを搭載し、IDSの劣る制空力を強化した世界最優秀の長距離迎撃機である。

F	-	①	15	50	20
220\$			35K		75×7
		3			

IAI クワイル IAI KFIR

仏のミラージュVをベースに、J79エンジンに換装、再設計したイスラエルの国産機。ミラージュとの

外見的な差は、空気取入口直後に小さな三角翼があることである。推力が30%ほど増し運動性も向上した本機は、ミラージュVの性能を上回った。最新のC7型は、さらに推力の向上を図り、最高速マッハ2.3を記録した。

全長 15.50m
全幅 8.20m
速度 マッハ2.30

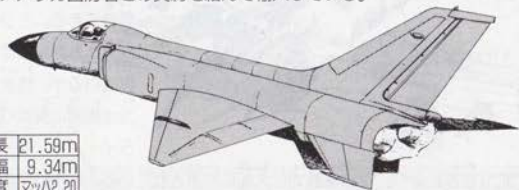


F	-	①	15	50	10
200\$			30K		65×6
		5			

ハンヨウ J-8 (フィンバック) SHENYANG J-8 (FINBACK)

1960年代中期、中国はMiG-21を双発化した戦闘機を開発した。これがJ8Aであるが、出力が2倍になったにも関わらず、性能はほとんど向上しなかった。そこで秘かに改良を進めていたのが、このJ8Bである。しかしJ8B用の国産電子装備が無いので、アメリカ国防省との契約を結んで輸入している。

F	-	①	15	40	10
150\$	35K		60×7		
		7			

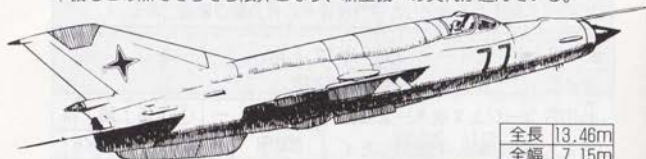


全長	21.59m
全幅	9.34m
速度	マッハ2.0

ミコヤン MiG-21 (フィッシュベッド) MIKOYAN MiG-21 (FISHBED)

世界38カ国において総生産数4000機を越える、共産圏諸国で最もポピュラーな機体である。1950年代中期に登場した本機は、同時代のF-104に比べ若干劣る点もあるが、燃料搭載量が少なく、電子装備、武装面でも格段に劣っている。30年の歴史を持つ本機もこの点でそろそろ限界となり、新型機への交代が進んでいる。

F	-	①	14	30	0
120\$	20K		60×5		
		7	8	9	11



全長	13.46m
全幅	7.15m
速度	マッハ2.10

ミコヤン MiG-25 (フォックスバット) MIKOYAN MiG-25 (FOXBAT)

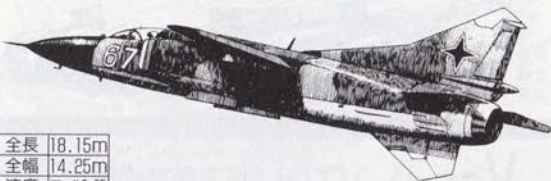
1976年の函館亡命一躍有名になった、世界最速の実用戦闘機。本来はアメリカ空軍のXB-70バルキリー戦略爆撃(試作のみ)を迎撃するため開発されたのだが、マッハ3級の速度力は運動性と両立できず、実用限界のマッハ2.8では旋回半径が数kmにも及ぶ。しかし本機の数多くの世界記録は、今なお破られないものが多い。

F	-	①	16	35	5
220\$	30K		50×17		
		8			11

ミコヤン MiG-23 (フロッガー) MIKOYAN MiG-23 (FLOGGER)

MiG-21の更新用として、1970年代にはいと急速に量産された、ワルシャワ条約機構諸国の主力戦闘機である。増槽を3本まで装備でき、ソ連機としては優れた航続距離も持っている。本機の特徴はその可変翼にあり、翼を後退させれば超音速時の空気抵抗が減少し、前進させると地上への低空攻撃に理想的な空力特性を得ることができる。翼の開閉には約4秒ほどかかるが、これは、自由圏の可変翼機に比べかなり速いものである。

F	-	①	15	35	5
170\$	25K		50×7		
		8	9	11	



全長	18.15m
全幅	14.25m
速度	マッハ2.35

ミコヤン MiG-29 (フルクラム) MIKOYAN MiG-29 (FULCRUM)

1989年のファーンボロ航空ショーに現れ異例の公開となった、ソ連の新鋭戦闘機。機首には高度なパルス・ドップラー・レーダーを装備し、質的にも西側戦闘機にひけをとらなくなった。また機動性、加速性もF-18より優れ、F-16に匹敵する程優れていると推測される。機体上面には開口部があり、地上では主エアインテークを閉め、こちらを使用する。これは異物吸入による、エンジンの破損を防ぐためである。

F	-	①	15	65	10
250\$	35K		50×9		
		8			



全長	15.50m
全幅	12.00m
速度	マッハ2.30

ミコヤン MiG-31 (フォックスハウンド)

MIKOYAN MIG-31 (FOXHOUD)

MIG-31はMIG-25を基礎として
いるが、それとは全く異なる新機
種である。MIG-25との大きな違い

は、複座型であること、主翼端のマス・バランスのブロックの廃止、主翼
のアスペクト比の変更などである。搭載する8発の長射程AA-9ミサイル
は、同時4目標の攻撃を可能としている。

F	-	①	15	40	4
300\$		40K		60×17	
		8			

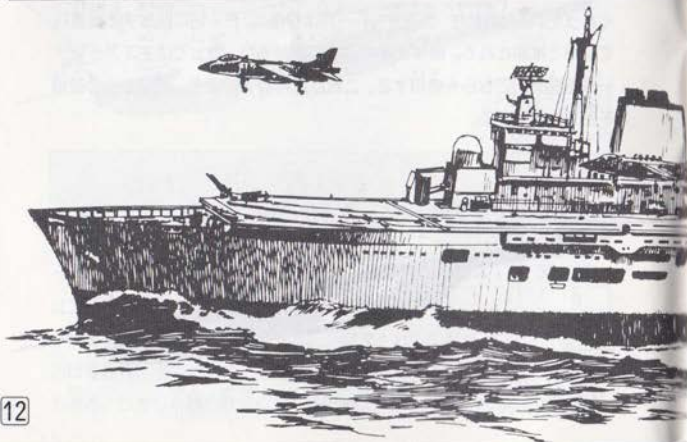


全長	22.50m
全幅	14.00m
速度	マッハ2.30

Vユニット VTOL (すいちよくりちやくりき)

すいちよくりちやくりき

垂直離着陸機の最大の特徴は、地上ユニットの補給部隊か
ら補給ができることである。また、ヘリ空母、空母などにも
着艦することができ、空港の少ないマップでは、大きな活躍
を期待できる。だが、Vユニットは西側の「ハリアーII」と、東
側の「フォージャー」しかなく、使える国が限られている。

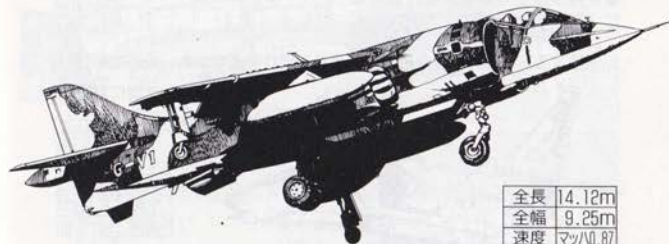


マクダネルダグラス / BaE AV8B ハリアーII

McDONNELL DOUGLAS/BaE AV8B HARRIER II

英国において、世界で初めて実用
化されたVTOL (垂直離着陸機)、
AV8Bハリアー。これを基本に、米
国MD社と英国BaE社が共同で開発し、大きな航続力と兵装搭載能力を
持たせたのがAV8BハリアーIIである。機体の構造上、アフターバーナー
が無く亜音速機ではあるが、ハリアーの特徴である飛行中にエンジンの推
力を変えられるという比類のない機動性は、新鋭戦闘機にとっても侮り難
い能力である。

V	-	①	12	50	10
180\$		30K		45×7	
1	3			10	12



全長	14.12m
全幅	9.25m
速度	マッハ0.87

ヤコブレブ Yak-36/Yak-38 (フォージャー)

YAKOVLEV Yak-36/Yak-38 (FORGER)

英国のハリアー/シーハリアーに
ついて、世界で2番目に実用化され
たVTOL機。本機は、ソ連の航空巡
洋艦キエフ級に搭載されている。ハリアーと違い上昇用のエンジン別に
積んでいるが、このため航続距離が短くなっている。また兵装ベイロード
も限定され対地攻撃には不向きとみられるが、搭載能力は予想以上
に大きいとする見解もある。武装は翼下に機関砲、ロケット弾、各種ミサ
イルなど、多種多様の機外装備ができるようになっている。

V	-	①	12	35	5
140\$		20K		40×5	
		8			



全長	15.50m
全幅	7.32m
速度	マッハ0.81

Aユニット

こうげきき 攻撃機

攻撃機は、すべての地上部隊にとって恐れられる存在だ。攻撃ヘリに比べ移動力が大きく戦場では、活躍が期待できるだろう。ただし、戦闘機の動きには十分注意すること。

マクダネルダグラス A-4 スカイホーク McDONNELL DOUGLAS A-4 SKYHAWK

軽量小型ながらも大きな兵器搭載量を持つ艦上攻撃機。良好な操縦性、多用途性、信頼性、頑丈さ、低い生産コストなどの特長を持つ近來まれな傑作機となった。そのため1954

A	-	①	12	35	15
120\$		20K		50×5	
1		5		10	

年以降25年間に渡り、300機以上生産された。



全長 12.27m
全幅 8.83m
速度 マッハ0.96

グラマン A-6 イントルダー GRUMMAN A-6 INTRUDER

超低空からの攻撃用兵思想から開発された全天候型艦上攻撃機で、戦術核攻撃と通常兵器による局地

A	-	①	12	10	25
150\$		25K		85×7	
1					

攻撃を目的としている。亜音速低空飛行するため、機首は丸々と鈍く複座のコックピットは並列配置である。最新型のF型はキャンセルとなったが、今後もアメリカ海軍及び海兵隊の重攻撃部隊の主力であり続けるであろう。

ボート A-7 コルセア VOUGHT A-7 CORUSAIR II

A-4 スカイホークの後継機として開発された単座の艦上攻撃機で、開発期間と経費削減のためF-8 艦上戦闘機の部品を極力流用すると共に、小型軽量化を図るという方針で開発された。主に低速機動性の向上と、兵器搭載能力の強化が行われていく。最近、エンジンを換装したF型が、開発されているという。

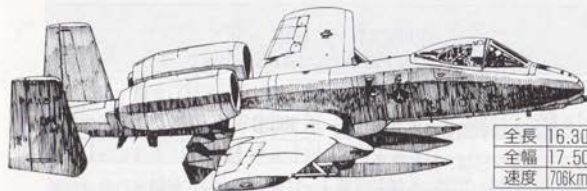
A	-	①	12	25	25
180\$		30K		80×5	
1		4		10	12

フェアチャイルド A-10 サンダーボルト FAIRCHILD A-10 THUNDERBOLT II

A-10は地上部隊の近接支援攻撃専用の攻撃機で、大量の兵器を搭載して長時間の作戦行動が行え、低空

A	-	①	10	10	40
180\$		35K		60×7	
1					12

での優れた運動性を持ち被弾に対して強く設計されている。主翼に搭載する兵装はミサイル、爆弾など多様だが、対戦車攻撃の主兵器は機首の30mm ガトリング砲である。これは航空機搭載用の機関砲では、最強の物である。



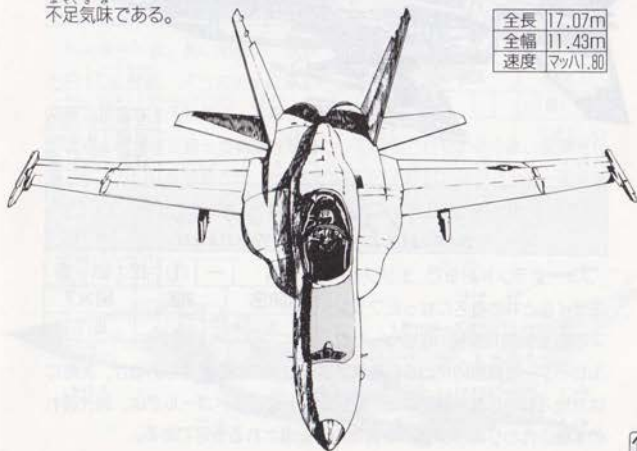
全長 16.30m
全幅 17.50m
速度 706km/h

マクダネルダグラス F/A-18 ホーネット McDONNELL DOUGLAS F/A-18 HORNET

アメリカ海軍で、F-14を補佐する戦闘機となり、またA-7攻撃機の後継として採用された、艦上戦

A	-	①	13	60	25
250\$		40K		55×9	
1				10	

闘/攻撃機である。兵装ペイロードが大きく、ライバルであるF-16A/Bと違いレーダー誘導ミサイル（スパーロー）の運用ができるようになっている。戦闘機としての性能もほとんど遜色ないが、攻撃任務での航続距離がやや不足気味である。



全長 17.07m
全幅 11.43m
速度 マッハ1.80

ジェネラル ダイナミクス F-111 GENERAL DYNAMICS F-111

世界で初めて実用の可変翼機として知られる、アメリカ空軍の戦術・攻撃/戦略爆撃機。全備重量40tを越すその機体は、戦闘機といっても空中戦は得意ではなく、敵地奥深く侵襲し対地攻撃を行うのが主任務で、爆撃機に近い。この能力を活かし、主翼を大型化した戦略爆撃機のFB-111も作られている。

A	-	①	15	30	15
300\$		30K		105×11	
1					

SEPECAT ジャギュア SEPECAT JAGUAR

イギリスとフランスが共同開発した戦術支援戦闘機である。英空軍のジャギュアSは、敵航空兵力を飛行場に奇襲、北海では艦船攻撃する任務を負う。仏空軍のジャギュアAは、戦略爆撃機の進路上の対空火網を粉碎し、後続部隊の足場を確保する任務を負っている。また草地飛行場でのSTOL運用も容易である。

A	-	①	13	35	15
160\$		30K		65×5	
3	4				



全長 16.38m
全幅 8.49m
速度 マッハ1.60

ダッソー シュペルエタンダール DASSAULT SUPER ETENDARD

フォークランド紛争で、エグゾセ・ミサイルと共に有名になったフランスの艦上戦闘攻撃機。旧式化したクルセイダー戦闘機の代わりに艦隊防空についている機体もあるが、実際には対地/対艦攻撃専門である。新空母シャルル・ドゴールでは、時代遅れの本機の代わりにラファール海軍型が配備される予定である。

A	-	①	12	35	15
150\$		20K		50×7	
	4			10	

ダッソーブレゲー/ドルニエ TA501 アルファジェット DASSAULT-BREGUET/DORNIER TA501 ALPHAJET

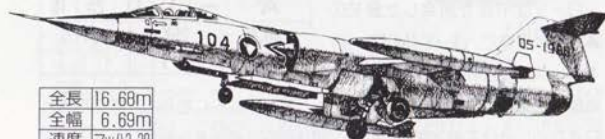
西ドイツとフランスが共同開発した、英空軍のBAeホークと並び、代表的な練習/軽攻撃機。西ドイツは地上攻撃機(A型)として使用し、フランスは練習機(E型)として使用する。攻撃機としての特徴は、小型でSTOL性を備え、優れた運動性と長い航続距離にある。生産は両国が50:50になるよう分担している。

A	-	①	11	5	10
120\$		25K		40×5	
2					

ロッキード F-104 スターファイター LOCKHEED F-104 STARFIGHTER

デビュー直後、高度27,813m、速度2,259 km/hという世界記録を達成し「最後の有人戦闘機」とまで呼ばれた傑作戦闘機。各型が作られたが、代表的な形式はNATO諸国向けのG型である。超音速へのダッシュ、ズーム上昇などの性能は現在でも一流だが、対戦闘機戦に不適なこと、構造疲労などの問題が重なり退役しつつある。

A	-	①	14	35	10
150\$		20K		65×5	
2				10	



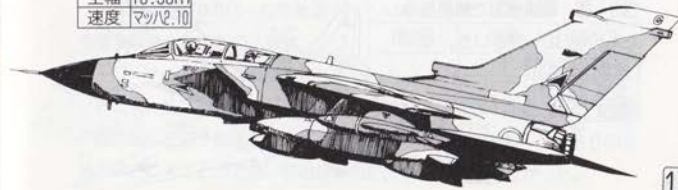
全長 16.68m
全幅 6.69m
速度 マッハ2.20

パナビア 200 トーネード (IDS) PANAVIA 200 TORNADO

トーネードは、長い航続力、優れたSTOL性能、バラエティに富む兵装、精密な全天候航法・攻撃システムなどの特性を持った戦闘攻撃機として開発された。その後、要撃任務とするADVが開発され、今までのIDSと呼ばれ区別された。基本型のIDSは、地上支援、艦艇攻撃、制空任務など多用途に使われている。

A	-	①	14	25	15
200\$		30K		70×7	
2	3			10	

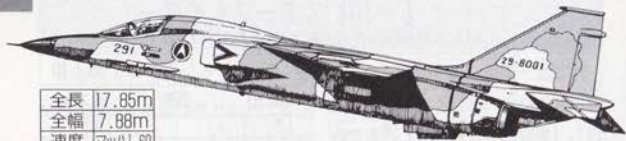
全長 16.70m
全幅 13.90m
速度 マッハ2.10



みつし
三菱 F-1
MITSUBISHI F-1

↑-2 練習機を発展させた国内開発の支援戦闘機。この機体は、ジャギア攻撃機の設計の強い影響を受けており、外形やエンジンはジャギアに準じたようになっている。また、練習機として完成したものを安直に戦闘機に転用したため、いろいろな問題が生じているが、性能的にジャギアに比べて劣っているわけではない。

A	-	①	13	35	15
160\$		25K		50×7	
		6			



全長 17.85m
全幅 7.88m
速度 マッハ1.60

なんしやう
南昌 Q-5 (ファンタン)
NANCHANG Q-5 (FANTAN)

Q-5は中国が開発した最初の本格的軍用機で、J-6 (MiG-19) をベースに改設計した地上攻撃用の戦闘機である。主な変更は機首を長くしてドーム形に整形し、空気取入れ口を左右に分けて胴体側面につけ、胴体内部に爆弾倉を新設したことで、ほとんど別機になった。輸出型のA-5は、パキスタンに輸出されている。

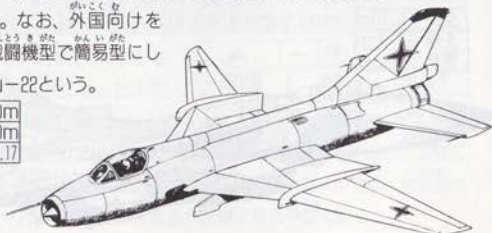
A	-	①	13	25	15
140\$		25K		45×5	
		7			

スホーイ Su-17 (フィッターC)
SUKHOI Su-17 (FITTER C)

Su-17はSu-7の機体に、可変後翼を組み合わせたものである。可変とはいっても外翼部の4mほどが動くもので、本格的なものではない。本機の可変翼は、Su-7の離着陸性能と攻撃力を安上がりで改善しようとしたものと思われる。なお、外国向けをSu-20、戦闘機型で簡易型にしたものをSu-22という。

A	-	①	14	20	15
140\$		25K		65×7	
		8	9	11	

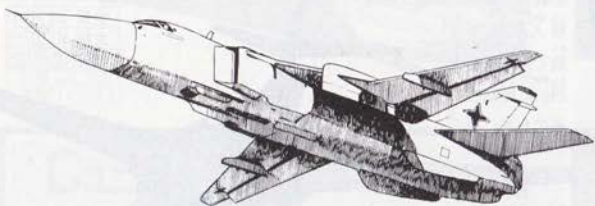
全長 15.40m
全幅 14.00m
速度 マッハ2.17



スホーイ Su-24 (フェンサー)
SUKHOI Su-24 (FENCER)

Su-24は、外観や機能、用途がアメリカのF-111に共通する点を多く備えた地上攻撃機である。大きさはF-111より一回り小さいが、その大きな機内燃料は本機に相当な航続距離を与えている。本機の配備によってソ連の戦闘攻撃力は格段に強化されたが、イ・イ戦争においてこの種の中爆の弱点が現れ、長距離航空軍へ移管されつつある。

A	-	①	14	20	15
250\$		30K		70×13	
		8			



全長 21.30m
全幅 17.20m
速度 マッハ2.10

スホーイ Su-25 (フロッグフット)
SUKHOI Su-25 (FROG FOOT)

Su-25の任務は近接支援である。A-10のソ連版に近いが、用兵思想に大きな違いがある。近接支援機に

A	-	①	11	15	30
180\$		35K		55×9	
		8	9		

対して、アメリカは大攻撃力重視であるのに対し、ソ連は軽攻撃力を持つ安価な機体の大群で攻撃することを目的とした。そのため、本機は運動性は良いが、限られた搭載能力しか持たないCOIN機の性格に近い。

ミコヤン MiG-27 (フロッガーD/J)
MIKOYAN MiG-27 (FLOGGER D/J)

汎用戦闘機のMiG-23を戦闘的支援攻撃機としたもの。機体、アフターバーナーなど各部を簡素化している反面、武装搭載能力が大きく向上している。胴体下面に3か所、主翼の固定部に左右2か所ずつのハードポイント(懸吊接続部)に61余りの兵器をほどこすことができ、対地攻撃力の大幅な向上につながった。

A	-	①	13	25	10
160\$		30K		65×7	
		8	9	11	

Bユニット

ばげき き 爆撃機

建^た物^{もの}や、橋^{はし}な^など^のの地^ち形^{けい}に爆^{ばく}撃^{げき}の加^{くわ}えら^れる^る唯^{ただ}一^{いつ}種^{しゆ}のユ^いニ^つツである。機^きあ^たり^のの価^か格^{かく}は高^{たか}いが、使^{つか}い^かた^た第^{だい}で^はど^ののユ^いニ^つツよ^りも効^{くわ}果^{くわ}がある。

ロックウェル B-1 ROCKWELL B-1

B-52の後継機として開発された、米国の超音速大型戦略爆撃機。低高度高速侵入攻撃が可能であることを目的に開発され、そのために可変

B	-	①	13	70	60
1000\$		100K		160×19	
1					

全長 44.81m
全幅 41.67m
速度 マッハ.25



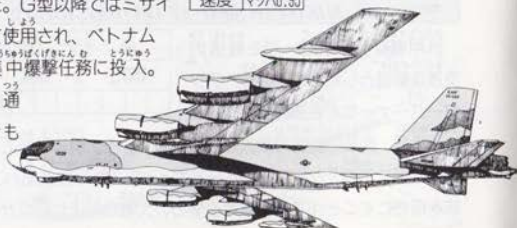
翼と地形回避レーダーを持つ。一旦は開発中止になったが、1981年レーガン大統領の「強いアメリカ」の政策の一環として、再開された。再開発型はB型となり、高速飛行よりも秘密性を重視している。

ボーイング B-52 ストラトフォートレス BOEING B-52 STRATOFORTRESS

戦略航空軍団を象徴するアメリカの巨人爆撃機。当初はメガトン級の水爆を搭載する戦略爆撃機として開発され、F型までは水爆4発を搭載していた。G型以降ではミサイル母機として使用され、ベトナム戦争時には集中爆撃任務に投入。世界最大の通常爆撃機でもある。

B	-	①	12	0	40
600\$		70K		190×19	
1					

全長 49.10m
全幅 56.40m
速度 マッハ.95

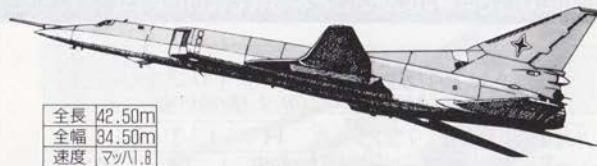


ツポレフ Tu-26 (Tu-22M) (バックファイア) TUPOLEV Tu-26 (Tu-22M) (BACKFIRE)

1969年アメリカの偵察衛星が、中央アジア・カザンのツポレフ工場に

B	-	①	13	20	50
500\$		80K		130×15	
1			8		

2機の原型機を確認している。その後、75年から量産機が毎月30機の割合で生産され、空軍遠距離航空隊と海軍航空部隊に配備されている。SALTでは戦略兵器が中距離爆撃機かで見えなかったが、その後米ソ間で後者であるという合意が得られている。



全長 42.50m
全幅 34.50m
速度 マッハ.8

Cユニット

しえん き 支援機

航空ユニットにとっては、縁の下の力持ち的存在である。防衛力が弱いので、できれば戦闘機といっしょに使いたい。

輸送機

TRANSPORT PLANE

すべての地上ユニットを輸送することができるが、搭載、降車が空港でしか行えず、空港の少ないマップ

C	S	①	10	0	0					
200\$		40K		80×15						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

では運用に苦勞するだろう。だが、移動力が他の輸送ユニットに比べ大きく、前線が遠い戦場では大変便利である。もっとも、防衛力が皆無なので航空ユニットや対空車両ユニットには、常に注意を払う必要がある。

補給機

SUPPLY PLANE

空港の少ないマップや、敵の占領地で航空ユニットを展開する場合など、燃料の補給を行いたいときには活躍するだろう。このユニットが近くにいるときは、タンクなどを付けずに爆弾やミサイルなどを持てるだけ持った方がいいだろう。ただし、このユニットも防衛力が皆無なので敵の攻撃を受けないようにしよう。

C	-	①	11	0	0
600\$		40K		90×15	
1		3	5		8

ユニット

ヘリコプター

ヘリコプターは、VTOLと同様に補給部隊から補給でき、ヘリ空母や航空母艦に搭載できる。だが、最大の利点はその価格にある。歩兵を戦場に運ぶのなら、輸送機や揚陸艦より輸送ヘリの方がずっと安く上がる。攻撃ヘリにしても、へたな戦車や攻撃機よりよっぽど強い。もっとも、戦闘機や対空車両に対しては無力に近いことを忘れてはいけない。

ベル 204/205/212/UH-1 イロコイ

BELL 204/205/212/UH-1 IROQUOIS

米陸軍の中型汎用ヘリコプターとして設計され、現在までに各型合わせて生産数が11,000機を越えるタービンヘリコプター。特に乗員を12名積めるようになったD型、H型は、ベトナム戦争において活躍した。UH-1シリーズの特徴は、簡単な構造、高い信頼性、容易な整備が上げられ、多様な任務に耐えられる機体である。

	H	I	①	7	0	5
	20\$	15K	42	×5		
	1	2	5	6	10	12

シコルスキー UH-60/S-70 ブラックホーク

SIKORSKY UH-60/S-70 BLACK HAWK

米陸軍のUTTAS（汎用戦術輸送システム）として採用されたヘリコプター。UH-1の後継機として、戦術輸送や負傷者の後送に使用される。UH-1に比べ安全性や飛行性が向上し、ローターなどは23mmの機関砲が命中しても、約30分の飛行が可能である。また、ATMを搭載し、攻撃ヘリコプターにも転用できる。

	H	I	①	8	5	20
	60\$	20K	60	×6		
	1					

全長	15.26m
全高	3.76m
速度	296km/h



ベル 209/AH-1 ヒュイ(シー)コブラ

BELL 209/AH-1 HUEY (SEA) COBRA

ベトナム戦争で米陸軍の大型輸送ヘリコプターを護衛するため、UH-1B/Cから開発した攻撃ヘリコプター。S型の武装は機首のターレットに20mm機関砲を積み、胴体両側の短翼にTOW 8発等を搭載する。また、この短翼は本機の高速度も助けている。最新の改良型であるW型は、最新のアップッチに対しても、ある点では匹敵する能力がある。

	H	-	①	7	10	30
	60\$		15K		51	×5
	1		5	6		12

全長	13.59m
全高	3.68m
速度	315km/h



マクダネルダグラス 77/AH-64 アパッチ

McDONNELL DOUGLAS 77/AH-64 APACHE

1984年、米陸軍のAAH（先進攻撃ヘリコプター）として採用された、攻撃ヘリコプター。生残性に対する設計が特徴的で、主ローターは鋼板の半分が直撃弾に貫通されても飛行可能、胴体は23mmの機関砲が当たっても耐えられる。武装は、機首に30mmチェーンガン、固定短翼にはヘルファイア対戦車ミサイル16発を搭載する。

	H	-	①	8	15	50
	80\$		25K		48	×7
	1					

全長	14.68m
全高	3.86m
速度	365km/h



アエロスパシール SA341/342 ガゼル
AEROSPATIALE SA341/342 GAZELLE

高速、長航続の飛行性能を持つ、
仏の民間小型汎用ヘリコプター。「フ
ェネストロン」と呼ばれるテイルロ

ーターが大きな特徴で、この部分の故障を防ぎ安全性を高めるのが目的である。仏陸軍向けの342 Mは、HOT対戦車ミサイル4発と、20mm機関砲を装備、攻撃ヘリとして使用される。

H	-	①	8	0	20
60\$		15K		76×2	
	3	4			

全長	9.53m
全高	3.18m
速度	310km/h



ボーイング・バートル V114/CH-47 チヌーク
BOEING-VERTOL V114/CH-47 CHINOOK

米陸軍のタンデム・ローター形式
の大型輸送ヘリコプター。チヌーク
の初期型はベトナム戦争に投入さ

れ、ヘリボーン作戦に活躍した。最新の改良型であるD型は、搭載量が初期型の2倍ほどにもなっている。その能力は44人の兵員を輸送し、外部搭載量は12,700kg、着水も可能である。また、生存性も向上している。

H	Q	①	7	0	15
80\$		30K		42×19	
1	3	6			

全長	15.54m
全高	5.68m
速度	295km/h



ウェストランド WG.13 リンクス
WESTLAND WG.13 LYNX

英仏共同開発の中型多用途双発
タービン・ヘリコプター。陸軍の汎
用型では各種の攻撃武装ができ、海
軍型では対潜任務の装備が搭載できる。英陸軍の対戦車攻撃用は、機首下
面に20mm機関砲を、
固定短翼ATM8
発を持つ。兵員輸
送も可能である。

H	I	①	8	10	20
30\$		20K		54×4	
	2	3			10

全長	12.06m
全高	3.50m
速度	333km/h



MBB BO 105(PAH-1)
MBB BO 105(PAH-1)

西陸軍が、対戦車攻撃機PAH-
1として採用している、民間小型
双発ヘリコプター。キャビン内部は

5人乗りで、操縦反応が早く固定翼機のような運動性を持っている。PAH-1は、この機体にHOT対戦車ミサイルを6発搭載している。現在、PAH-2が登場する1990年代半ばまで活躍するための改良化が進んでいる。

H	-	①	7	0	20
60\$		15K		54×3	
	2				

アエロスパシール AS332 シュペルピューマ
AEROSPATIALE AS332 SUPER PUMA

SA330を基礎として開発された、
仏の民間大型輸送ヘリコプター。飛
行特性と整備性、軍用としては生存
性を向上させるように改良されている。標準型と長胴型とがあり、長胴型
332 Mは25名の兵員が搭載可能である。また、海軍型の332 Fはエグゾセミ
サイルが搭載できる。日本にも政府専用機として3機購入されている。

H	I	①	8	10	15
30\$		20K		87×6	
		4			

全長	15.52m
全高	4.92m
速度	304km/h



ミル Mi-24 (ハインド)

MIL Mi-24 (HIND)

ソ連最初の攻撃／輸送複合ヘリコプター。ハインドの任務は、空中からの攻撃で制圧し、兵員をそこ

H	I	①	8	10	40
70\$	20K		70×7		
			8	9	

に降り、さらにその地点への敵の反撃を制止することにある。初期のA型を発展させて、超低空飛行や攻撃ヘリとの空中戦の能力を持たせたのが、D型である。D型では、機首下面にガトリング砲を持ち、固定短翼にはロケット弾やミサイルを搭載できる。



全長	18.50m
全高	4.25m
速度	320km/h

ミル Mi-8 (ヒップ)

MIL Mi-8 (HIP)

ソ連の主力軍用ヘリコプターとして、10,000機以上量産されている輸送ヘリコプター。兵員

H	Q	①	7	5	10
25\$	15K		50×8		
			8	9	11

32人、貨物なら4tまで搭載可能である。武装は、胴体左右のパイロンに、32発のロケット弾パックまたは250kg爆弾の6個が搭載可能である。最近エンジンに換装し、総重量12,900kgのヒップH型(Mi-17)も開発された。



全長	18.17m
全高	5.65m
速度	250km/h



地 下 ミ ス イ ン

ARMY

CONTENTS

PRSMDUEI

戦車	28
対空車	34
装甲車	41
兵員輸送車	44
自走車	48
牽引車	52
非装甲車	52
鉄歩道	53
	54

Pユニット

せんしや 戦車

その主役が戦闘機なら、陸上の雄は戦車である。対地攻撃力、対地防御力共に、他の地上兵器にくらべ高く作られている。だが、対空攻撃力、防御力を持った戦車はほとんどない。単独での行動は、航空ユニットのいいカモとなり、命取りとなるかもしれない。大戦略の重要な位置を占めるだけに運用には十分注意して使いたいものだ。

クラウスマッフアイ レオパルド1A4 KRAUSS MAFFEI LEOPARD 1A4

レオパルド1は、M60、チーフテン、AMX-30と同時代のもので、西独が大戦後初めて開発した主力戦車である。A4型は、外観的には、铸造だった初期型の砲塔に換えスペースド・アーマーの溶接型砲塔を搭載したA3型と変わらないが、搭載機材が一一新して主砲命中精度が高まり、シリーズ中最も高い戦闘力を持つ。

クラウスマッフアイ レオパルド2 KRAUSS MAFFEI LEOPARD 2

120mm砲、最新の射撃統制装置、特殊装甲を使用して、世界最強の戦車との定評がある西独の主力戦車。一番特徴があるのは垂直面で構成された角張った砲塔のスタイルで、スペースド・アーマーと特殊鋼で装甲されている。主砲は、M1にも搭載されている44口径120mm滑腔砲で、弾薬には焼尽業莖を使用している。

P	-	@	6	10	40
45\$		15K		60×3	
2				10	

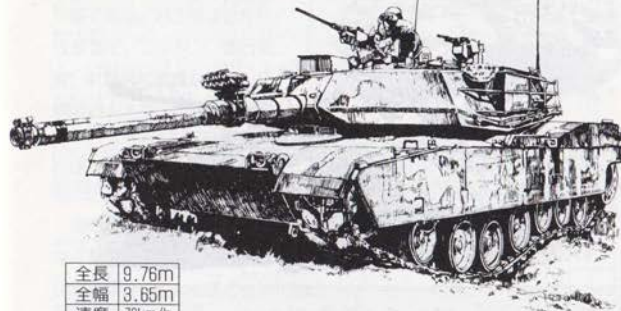
P	-	@	7	20	60
65\$		20K		55×3	
2					

全長 9.61m
全幅 3.70m
速度 72km/h

ジェネラル ダイナミクス M1A1 エイブラムズ GENERAL DYNAMICS M1A1 ABRAMS

クライスラー社の開発した米陸軍の新型主力戦車。M60の後継として、優れた攻撃力、機動力、残存性を目標に設計された。エンジンにガスタービンを採用している点は画期的だが、燃費は悪くなった。A1型は、主砲を120mm滑腔砲に換装し、従来の複合装甲に加え劣化ウランの装甲を追加し、攻撃・防御力を強化している。

P	-	@	7	20	65
65\$		20K		44×9	
1					12



全長 9.76m
全幅 3.85m
速度 70km/h

クライスラー M60A3 CHRYSLER M60A3

M60は、ソ連のT54戦車に対抗するため開発された、米陸軍の主力戦車である。当時の主力戦車であったM48A2をベースに、ディーゼル・エンジンの採用やNBC防御を高めるなどの改良を加えた。A3型は最終量産型で、射撃統制装置にレーザー測速機を用い、パッシブの暗視装置を取り付け夜間の戦闘力を増している。

P	-	@	5	10	45
45\$		15K		50×4	
1		5		10	

全長 9.44m
全幅 3.63m
速度 48km/h



ROF/ビッカーズ FV4201 チーフテンMk.5
ROF/VICKERS FV4201 CHIEFTAIN Mk.5

センチュリオン中戦車およびコ
ンカラー重戦車の後継として開発
された英国の主力戦車。1961年の公
開当時、長砲身の55口径120mm砲と重装甲で注目され、その能力は現在でも
第一線で通用する。Mk.5型は、720馬力のエンジン、レーザー測速機を搭
載、主砲も新型に換装された。だが、超過重のため機動性が犠牲となった。

全長	10.82m
全幅	3.50m
速度	49km/h



P	-	③	5	10	55
50\$		15K		45×3	
3					

イシイ・レ・ムリノー AMX-30B2
D'ISSY-LES-MOULINEAUX AMX-30 B2

1960年代のNATO標準戦車を
仏・西独・伊の共同で開発するとい
う協定に基づき、フランスが作った
戦車である。協定は破棄されたが、フラン
スはAMX-30を開発した。仏戦車の伝統
ある铸造車体と砲塔を持ち、105mm砲を搭
載、同軸機関砲は対空射撃も
可能である。B2型は近代化
改修型で、エンジン、走行装
置、射撃統制装置を改良、夜
間戦闘力を強化している。

P	-	②	6	10	35
50\$		15K		50×3	
	4			10	

全長	9.48m
全幅	3.10m
速度	65km/h



ROF/ビッカーズ/レイランド センチュリオン イスラエル型
ROF/VICKERS/LEYLAND CENTURION ISRAEL TYPE

1943年に設計が開始されて以来、
様々な改良が加えられ、現在も数カ
国で使用されている息の長い英国の
戦車である。その内、イスラエルに輸出されたものは、現地で大幅に改修
され、最近のレバノン紛争にも参加している。主な改良点は、エンジンの
換装、アクティブ・アーマーの装着による、機動力と防御力が増加である。

P	-	②	4	10	45
35\$		10K		30×4	
	5			10	

ROF チャレンジャー
ROF CHALLENGER

チャレンジャーは、1983年にチー
フテン戦車の後継として採用された、
英陸軍の主力戦車である。主砲は同

じだが、チョバム・アーマーと呼ばれる複合装甲およびスペースド・ア
ーマーを採用し防御力を高めてある。また、65tと現用戦車では最も重いもの
となっているが、1200馬力のエンジンが、軽快な機動性を与えている。

全長	11.55m
全幅	3.51m
速度	56km/h



P	-	③	6	20	70
70\$		20K		43×3	
3					

IMI メルカバMk.2
IMI MELKAVAMK.2

1967年から設計を開始し、第4次
中東戦争の戦訓を取り入れて作ら

P	I	③	5	20	60
60\$		20K		50×4	
	5				

れた、イスラエルの主力戦車。特
に、防御力と乗員人命を重視した設
計で、車体前部にエンジンを置き、
装甲は二重で間に燃料を満たして
いる。人口の少な
いイスラエルし
い構造だと言え
る。

全長	8.63m
全幅	3.72m
速度	46km/h



しきせんしゃ
三菱 61式戦車
MITSUBISHI TYPE 61 TANK

旧式化した米軍供与の戦車の後継として、戦後初めて国内開発された、自衛隊の主力戦車。米のM47、M48

を参考に設計されたが、日本の地勢、輸送手段、日本人の体格を考慮しての開発となった。このため主砲こそ同じ90mmだが、小型で軽くなり機動性は高くなった。もっとも、装甲の軽減化により防御力は低くなったのだが。

P	-	②	5	10	30
45\$		10K		30×4	
		6			

しきせんしゃ
三菱 74式戦車
MITSUBISHI TYPE 74 TANK

61式戦車の後継として開発された、1970年代の戦車としては各国の中でも優れた主力戦車である。当時の最

新技術が使われているが、その中でも油気圧式懸架装置が特徴的である。この機構は、車体の上下、左右、前後の姿勢変更を可能にし、地形に合わせて射撃姿勢を選んで命中精度を高めている。また、不整地走行の速度向上にも貢献している。

P	-	②	5	10	40
60\$		15K		30×4	
		6			

全長	9.41m
全幅	3.18m
速度	53km/h



T-54/55
T-54/55

T-54は、T-34/85の後継として作られたT-44が攻撃力不足だったため開発された、ソ連の主力戦車。

T-44の車体に、SU-100の100mm戦車砲を装備する砲塔を搭載している。この改良型であるT-55は、新型のエンジンの搭載など一部の改修点があるが、外見の差はあまりない。生産台数は両型で4万台を越えている。

P	-	②	5	10	35
30\$		10K		56×3	
		7	9	11	

T-62
T-62

1960年代初頭、西側はT-54/55に対抗し得る戦車、M60、レオパルド、チーフテン、AMX-30等を配備

しつつあった。ソ連はこれに対抗するため新型戦車の開発に入った。これがT-62である。従来のライフル砲を改め、115mmの滑腔砲を主砲とし、射撃精度は劣るものの威力は高く、装甲の被弾経始性も優れていた。

P	-	②	5	10	40
40\$		15K		45×3	
		8		11	



全長	9.40m
全幅	3.37m
速度	50km

T-64
T-64

1967年にT-62の後継車として量産が始まったソ連の主力戦車で、125mm滑腔砲、自動装填装置を搭載する、

ソ連戦車では画期的な設計である。後に登場するT-72までのつなぎの戦車と見られていたが、T-64には油気圧式懸架装置やエンジンなど新技術が多く使われ、ソ連軍のみ配備されていることから、否定的意見も多い。

P	-	②	6	20	50
50\$		20K		50×3	
		8			

T-72
T-72

1977年のモスクワ車バレードで初めてその存在が明らかになった。

基本的にはT64と同じものと思われ

たが、中型転輪大さき、エンジン、サスペンションなど、外見、内面ともに小さな変更がほどこされている。また、配置もソビエト国内だけでなく、東欧諸国、インドで生産され、シリア、アルジェリアにも輸出されている。

P	-	②	7	20	50
60\$		20K		50×5	
		9			

T-80

過去、T-80は写真やイラストで紹介された割には、存在が確認されなかったが、どうやら故障の多かったT-84の改良型と言うのが正しいようだ。ガスタービンエンジンを搭載し、主砲からミサイル発射できるのが特徴で、リアクティブ・ア

ーマーを付け、対戦車ミサイルへの防御力を高めた。



P	-	④	7	25	60
60\$		25K		50×5	
			8		

全長	9.90m
全幅	3.40m
速度	75km/h

ジェネラル エレクトリック M163 ヴァルカン

GENERAL ELECTRIC M163 VULCAN

航空機搭載用のM61ヴァルカン20mm機関砲を、車載用とした対空機関砲がM163である。これをM113兵員輸送車に搭載して、自走化している。有効射程は対空で1,500 mで、速度830km/h以下の航空機に対する撃墜率は、35%である。すでに能力不足だが、後継となるはずだったM247 ヨークは生産中止となってしまった。

R	-	④	7	25	10
30\$		15K		48×2	
1		5		10	12



全長	4.86m
全幅	2.85m
速度	59km/h

Rユニット

たいくしやりよう 対空車両

航空ユニットに対して、有効な攻撃力を持つ地上ユニットだ。直接攻撃できるタイプと間接攻撃できるタイプがある。

ジェネラル モーターズ M42 ダスター

GENERAL MOTORS M42 DUSTER

1951年より開発が始まった米陸軍の低空防空用自走砲である。M41軽戦車の車体に、大戦末期のM19自走

40mm連装対空機関砲の砲塔をそのまま載せたため、開発は短期間で済んでいる。ベトナム戦争では地上攻撃にも活躍している。なお、米国ではすでに車単に残っているだけだが、日本を始め10数カ国ではまだ現役である。

R	-	③	7	20	15
25\$		10K		30×7	
1		6		10	

フォード M48 チャパラル

FORD M48 CHAPARRAL

MIM-72チャパラル近距離対空ミサイルを、M730に搭載したシステムがM48である。チャパラルは、元来空対空ミサイルであるサイドワインダーを地对空用に改造したものである。またM730は、M548装軌貨物輸送車より発達した車両である。ミサイルの有効射程は6,000m、赤外線ホーミングで誘導される。

R	-	④	6	25	5
40\$		15K		50×2	
1		5		10	12

レイセオン M548 ホーク

RAYTHEON M548 HAWK

1960年、M727HAWK対空ミサイルを、移動力強化のためM548装軌貨物輸送車に搭載したものである。

全長	5.89m
全幅	2.69m
速度	61km/h

R	-	④	6	0	5
50\$		15K		50×2	
1		5			

ミサイルはセミホーミング式で、目標から反射する照射レーダー波にてミサイルを誘導する。射撃高度は4,700～13,700mである。この自走型のHAWKを配備する国は、米国とイスラエルだけである。



ラインメタル 5FPZ-B2 ゲパルト RHEINMETALL 5FPZ-B2 GEPARD

1975年より量産の始まった西独の対空自走砲。ゲパルトの車体はレオパルト1の車体とほとんど同じであるが、装甲が若干薄くなっている。砲塔にはエリコン社製の35mm機関砲を1門ずつ左右に搭載し、前部に追跡用、後部に捜索用のレーダーを持っている。通常の射撃距離は、3,000~4,000mである。

全長	7.70m
全幅	3.37m
速度	70km/h



R	-	③	7	30	30
40\$		15K		55×3	
2					10

トムソンCSF クロタール THOMSON-CSF CROTALE

1964年に南アフリカよりの注文で、フランスが開発した低空防空用の対空自走ミサイル。クロタールは射撃車両2~3両と捜索捕捉車両1両で1グループを編成する。車両は、エンジンで発電機を動かし電気モーターで駆動する。有効射程500~8,500mで、80%の撃墜率を誇る。フランスでは、空軍が基地防空用に配備している。

全長	6.22m
全幅	2.65m
速度	70km/h

R	-	⑤	7	30	0
35\$		10K		50×2	
	4				10



ユーロミサイル ローランド2 EUROMISSILE ROLAND 2

西独と仏が共同開発した低空防空用の対空ミサイルで、それぞれの国の車体に搭載できるシステムである。

これを西独ではマルダー、仏ではAMX-30に搭載している。射程は500~6,300m、照射線誘導方式である。米国ではM109自走砲の車体に搭載したM975というローランド2を導入したが、あまりに高価なため、現在ではM812トラックに搭載され、州軍でしか使っていない。



全長	6.91m
全幅	3.24m
速度	70km/h

R	-	③	7	40	20
45\$		15K		51×2	
2	4				

R

BaE RCM748 装軌式レイピア BAE RCM748 TRACKED RAPIER

レイピアは、小型軽量、即応性、安価などの特徴を持つ英国の低空用対空ミサイルである。自走型の開発は1974年より始められ、搭載する車体には米のM548装軌貨物輸送車が使われている。レイピアミサイルは照射線誘導方式で、射程800~6,000m、近接信管は付いていない。フォークランド紛争では、非自走型が活躍した。

R	-	④	6	30	5
40\$		15K		48×2	
	3				

ARE AMX-13DCA ARE AMX-13DCA

30mm機関砲2連の砲塔を搭載したフランスの対空自走砲で、車体にはAMX-13が使われている。捜索測距レーダーが射撃統制装置に組み込まれており、有効射程は3,500mである。この砲塔をAMX-30の車体に搭載したものもあるが、仏陸軍では採用されておらず、1975年にこの改良型がサウジアラビアへ輸出されている。

R	-	③	6	30	15
35\$		15K		30×3	
	4				

しきたんきょう たいくう
東芝 81式短距離対空ミサイル
TOSHIBA TYPE 81 TAN-SAN

1966年から開発を始めた初の純
国産の低空防空用対空ミサイル。現
在、陸上および航空自衛隊に配備さ

れている。これをトラックに搭載した2基と、
レーダーを搭載した1基で1グループを形成
する。射程は7km、
赤外線ホーミング誘
導方式である。一度
に2機同時に攻撃で
き、優れたECCM
性を持っている。

r	-	⑤	8	30	10
45\$		15K		60×2	
		6			

全長	6.67m
全幅	2.41m
速度	85km/h



しきたんきょう じ そうほう
三菱 87式対空自走砲
MITSUMISHI TYPE 87 SELF-PROPELLED AA GUN

米軍供与のM15、M42の後継とし
て開発された、陸上自衛隊の対空自
走砲。開発当初、61式戦車の車体に

R	-	③	5	30	30
45\$		20K		30×4	
		6			

砲システムを載せる予定だっ
たが、74式戦車に変更された。
武装はエリコン社35mm機関砲を砲
塔の左右に載せ、外見はゲバルト
に似ている。また射撃統制装置は
レーダーと一体で、動揺修正も自
動的に行われる。

全長	7.99m
全幅	3.18m
速度	53km/h



がた しき たいくう じ そうほう
63型(式) 対空自走砲
TYPE 63 SELF-PROPELLED AA GUN

63式はT-34/85中戦車の車体
を利用して、地上で使用していた37
mm2連装機関砲を搭載したものであ

R	-	③	6	20	20
25\$		10K		50×3	
		7			

る。オープントップ型の砲塔を持ち、砲塔の旋回、砲の上げ下げはすべて
人力に頼るため、低空高速目標には対処できないと思われる。この車両はベ
トナム戦争末期に捕獲されたが、中国製でなく北ベトナム製の可能性もある。

ZSU-23-4 シルカ
ZSU-23-4 SHILKA

1960年代初期に開発された、ソ連
の対空自走砲。第4次中東戦争にお
いてイスラエル空軍機に大きな損害

を与えたことで、有名になった。ZSU-23-4の車体
は、PT-76の車体から発達したものである。有効射程は
せいぜい2,500 m程度
と推測される。欠点は
一つのレーダーで搜索
から照準まで行うた
め、射撃中に新たな目
標が現れても発見でき
ないことである。

R	-	③	4	20	10
30\$		10K		30×2	
			8	9	11

全長	6.54m
全幅	2.95m
速度	44km/h



SA-4 (ガネフ)
SA-4 (GANEF)

1950年代に開発さ
れたソ連の中低空
用の対空自走ミ

サイル。ガネフはNATOコー
ドでソ連名はZRD-SDであ
る。軍または方面軍の防空連隊に配
属され、前線の後方10~25kmに配置
される。射程は56kmで、ガイダンス・
ビームにより目標へ誘導される。現
在新型のSA12Aグラディエーター
に、その座を譲りつつある。

R	-	③	5	0	5
60\$		15K		30×3	
			8	9	



全長	9.46m
全幅	3.20m
速度	50km/h

SA-6 (ゲインフル) SA-6 (GAINFUL)

1967年のモスクワ・パレードに初めて現れた、ソ連の低空用の対空自走ミサイル。ゲインフルはNATO

コードで、ソ連名はZRK-SDkub、師団防空連隊に配属されている。射程は約30kmで、誘導方法はほげガネフと同じである。現在、新型のSA11ガドフライに交代しつつある。

全長	6.80m
全幅	3.45m
速度	44km/h

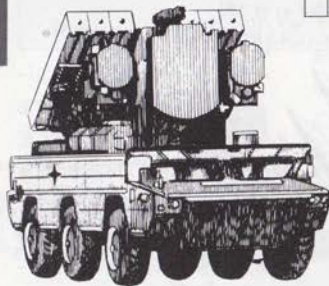
R	-	③	4	0	5
50\$		10K		30×2	
			8	9	11



SA-8 (ゲッコー) SA-8 (GECKO)

全長	8.99m
全幅	2.90m
速度	65km/h

r	-	⑥	6	30	5
30\$		10K		60×2	
			8	9	



1975年のモスクワ・パレードに初めて現れた、ソ連の全天候型低空防空用自走ミサイル。車体はZIL-167トラックから開発されたもので、浮航性を持つ。射程は1,600~12,000mで、指令電波に誘導され最終段階では赤外線ホーミングとなる。

SA-9 (ガスキン) SA-9 (GUSKIN)

ガスキンは、チャバル、ローランド、レイピアなどに相当する近距離対空自走ミサイルである。車体は

BRDM-2装甲偵察車を流用しており、中央部に全周旋回砲塔があり、両側に、ミサイルを収めた細長い四角柱のコンテナが取り付けられた形をしている。現在、ソビエト国内ではSA-13に置き換わりつつある。

R	-	⑥	8	0	25
25\$		10K		75×3	
				9	11

SA-13 (ゴーフル) SA-13 (GOPHER)

1970年代後半に開発された、SA-9の後継となる最新型の低空防空用自走ミサイル。ソ連名は、

ZRK-BD Telar?。車体はMT-LB多目的装甲車で、四連装の発射機が搭載されている。連隊レベルに配属され、ミサイルの射程は10km、赤外線ホーミングで誘導される。

R	-	④	6	30	10
35\$		15K		45×2	
					8

Sユニット

そうこうしゃりょう 装甲車両

ここでいう装甲車両とは、ATM(対戦車ミサイル)を積んだ攻撃車両を指す。ATMの利点は、攻撃開始が早く、装甲がある車両に対しての破壊力が大きいことである。

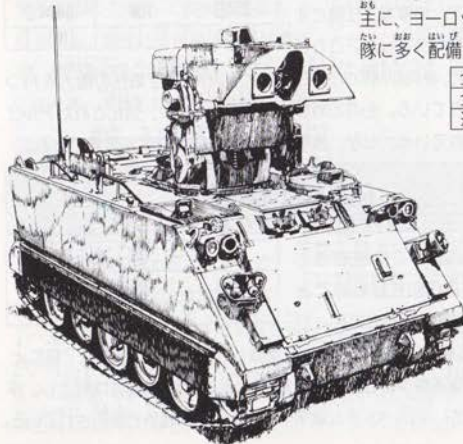
エマースン M901 EMERSON M901

1978年から83年までの間に1,992両生産されたアメリカの対戦車車両である。M113 A2兵員輸送車の上部に対戦車ミサイルTOW発射機を搭載している。発射機の位置は地表

から2.6mの高さにあり、30%の坂があれば車体を隠したまま攻撃できる。主に、ヨーロッパ駐留の部隊に多く配備されている。

全長	4.90m
全幅	2.70m
速度	68km/h

S	-	④	7	0	10
30\$		10K		48×2	
1					12



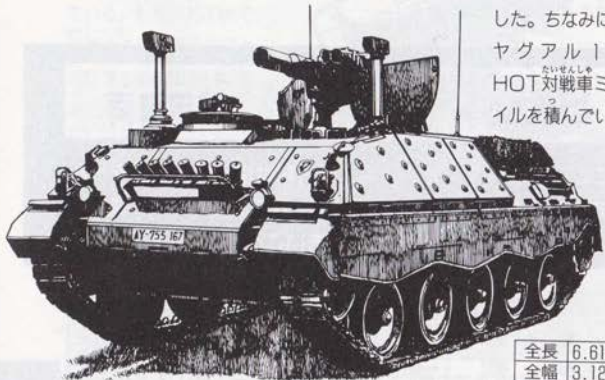
ハノマグ/ヘンシェル RJPz-TOW ヤグアル2
HANOMAG/HENSCHEL RJPz-TOW JAGUAR 2

ヤグアル2は、対戦車ミサイルTOWを主武装とする自独の対戦車車両である。車体は、1950年代末に

S	-	③	7	10	30
30\$		10K		40×2	
2					

開発された多目的車両HS-30で、カノーネ、マルダーといった車両にも使用された。ヤグアル2は、カノーネの砲を外してTOWを積むように改造

した。ちなみに、ヤグアル1はHOT対戦車ミサイルを積んでいる。



全長	6.61m
全幅	3.12m
速度	70km/h

アルヴィス FV101 スコーピオン
ALVIS FV101 SCORPION

1960年、英陸軍はサラディン装甲車の後継として、偵察を主任務とする軽戦車の開発を決定した。これが

S	-	④	8	0	10
25\$		10K		64×2	
3				10	

スコープオンで、歩兵部隊の火力支援と、水陸両用性、空輸性の能力を持つように設計されている。そのため車体は軽量化を図り、強化されたアルミ合金が使用されている。だが、装甲は機銃弾の防御程度が限界である。

63型(式) 軽戦車
TYPE 63 LIGHT TANK

60式戦車を改造して武装を強化したのが、中国の63式軽戦車である。60式戦車はPT-76のコピーだ

S	-	④	6	0	15
20\$		10K		37×3	
		7		11	

ったが、63式軽戦車は55式対戦車砲を車載し、エンジンの出力を2倍に上げ、燃料搭載量を増やしてある。重量は増加したが、機動性は向上し、浮航性も失われていない。ベトナム戦争や1971年の印パ戦争で使用されている。

イシィ・レ・ムリノー AMX-10RC
D'ISSY-LES-MOULINEAUX AMX-10RC

EBR 8 × 8 装甲車の後継として開発された、6 × 6、105mm砲搭載の偵察用の重装甲車。車体・砲塔とも

S	-	⑥	8	0	10
20\$		15K		80×2	
		4			

防弾アルミの溶接構造で、水上をウォータージェットで推進する。また油圧懸架装置で車高を変更でき、タイヤ圧も調整できる。1987年には、改良型のAMX-10RCsが現れ、エンジン出力が向上している。

イシィ・レ・ムリノー AMX-13/90
D'ISSY-LES-MOULINEAUX AMX-13/90

第二次大戦後まもなく開発された仏の軽戦車で、兵力を緊急展開させるため空輸できる設計になっている。

S	-	③	6	10	20
20\$		15K		40×3	
		4		10	

本車の中では揺動砲塔が特徴的だが、自動装填機構が簡単に付けられるという利点の他は、車高が高くなり上下の間に異物が入ると砲の上下ができなくなるなど欠点も多く、この系列の戦車以外の採用例はない。/90は90mm砲を搭載している。

小松 60式自走106mm無反動砲
KOMATSU TYPE 60 106-mm SELF-PROPELLED RR

第二次世界大戦後陸上自衛隊が初めて開発した、国産の装軌式戦闘車。普通科部隊(歩兵)の対戦車防御を

S	-	③	6	0	5
25\$		10K		30×3	
		6			

担当する。車体は防弾鋼の溶接構造で、大きさは世界最小の部類にはいる。無反動砲を二門装備し、昇降式の砲架に載せられ、約60m上下する。このため、本体を隠しての攻撃が可能である。

PT-76
PT-76

第二次大戦中に使用されたT-70、T-80軽戦車の流れを引くもので、1952年から配備され始めた、偵察、

S	-	⑪	4	0	10
15\$		10K		30×2	
		7	8	9	11

火力支援用軽戦車である。浮航性を有し、生産と取扱いが簡単という利点はあるが、軽戦車としては大型すぎ装甲が薄いという欠点も持っている。ベトナム戦争、印パ戦争、中東戦争、イ・イ戦争などに参加し、湿地帯での神出鬼没は有名である。

BRDM-2 BRDM-2

BRDM-2は、1966年頃から現れたソ連の装甲車で、BRDM-1に比べてエンジン出力を増大、装甲を強化し、優れた水陸両用車になっている。これを母体に派生型も多く、基本の機銃搭載車、ATGM搭載車、SAM搭載車、指揮官車などがある。

S	-	⑥	8	0	0
25\$		15K	75×3		
			8	9	11

ATGM搭載車は、対戦車ミサイルAT-5 Spandrelを搭載している。



全長	5.75m
全幅	2.35m
速度	100km/h

FMC M113 FMC M113

M113は、1956年に開発されて以来最も長く使用されている、米軍のAPC(装甲兵員輸送車)である。信頼性が高く、構造が簡単、廉価で、空輸性・水陸両用性に備えている。アルミ合金製で、12.7mm機関銃を搭載している。ただ、搭乗歩兵が中から戦闘できないため「戦場タクシー」の域を出ない面もある。

M	I	④	7	0	10
20\$		10K	60×2		
1	2	5		10	

GKNサンケイ MCV-80 ウォーリア GKN SANKEY MCV-80 WARRIOR

1970年頃、FV432兵員輸送車の後継として開発された、英国の歩兵戦闘車。外見が特に米のブラッドレイに似ているが、英国独自の開発である。搭乗歩兵用の銃眼はなく、ATMもないが、これは長時間の歩兵戦闘に対応することを主目的としたためである。車体はアルミ合金の全溶接構造であるが、浮航性のためではない。

M	I	②	7	5	15
30\$		15K	50×3		
	3				

Mユニット

へいじん ゆ そうしやりよう 兵員輸送車両

Mユニットは、兵員を運べる装甲車両である。ただしATMはほとんど持たないので、できれば戦闘行動は行わない方がいいだろう。兵員を無事に輸送するのが本来の目的なのだ。

FMC LVTP-7 FMC LVTP-7

1968年から開発され、1972年から実戦配備となった米海兵隊の上陸用車両である。車体はアルミ合金製の全溶接構造で、浮航性を良好にするため大きくポート型をしている。車

M	I	⑪	7	0	10
30\$		10K	48×3		
1			10		

体右前方の砲塔には、12.7mm機関銃と40mm榴弾自動発射機を装備している。なお、1987年からは、AAV7という名前がメーカーなどで使用されている。

全長	7.90m
全幅	3.20m
速度	24km/30km/h



FMC M2/3 ブラッドレイ FMC M2/3 BRADLEY

M1戦車と共に米軍機甲部隊の基本装備として開発された車両で、M2は歩兵戦闘車、M3は騎兵戦闘車用である。両者共基本的には同じで、アルミ合金製の車体、砲塔には中央に25mm機関砲、左側にTOW発射機を持っている。M3は、歩兵を載せる代わりにTOWを余分に載せ、搭乗員用の銃眼が無い。

M	I	④	6	5	25
45\$		15K	48×3		
1					12

全長	6.45m
全幅	3.20m
速度	66km/h



イシィ・レ・ムリノー AMX-10P D'ISSY-LES-MOULINEAUX AMX-10P

1965年から開発が始められた、フランスの歩兵戦闘車。車体はアルミ合金の全溶接構造で、水上をウオー

M	I	④	6	0	10
30\$		10K		60×2	
		4			10

タージェットで浮航する。車体中央部の砲塔には20mm機関砲を搭載し、乗員室の左右・後部の一つずつ銃眼を持ち、中の歩兵が戦闘できる。同車を母体にした各種車両が開発されており、総生産数は2000両に達している。

63型(式) (YW531) 兵員輸送車(IFV) TYPE 63 (YW531) ARMOURED PERSONNEL CARRIER

1960年代後半に開発された、小型軽量の中国の装甲兵員輸送車。車体は圧延鋼の全溶接構造であるが、浮

M	I	④	6	0	5
20\$		10K		40×2	
			7		

航性を持ち履帯(キャタピラ)で推進する。車体中央のハッチには12.7mm機関銃、乗員室には左右にそれぞれ一つの銃眼があり、搭乗歩兵は射撃ができる。ベトナム戦争やアフリカでの戦争にも使用されている。

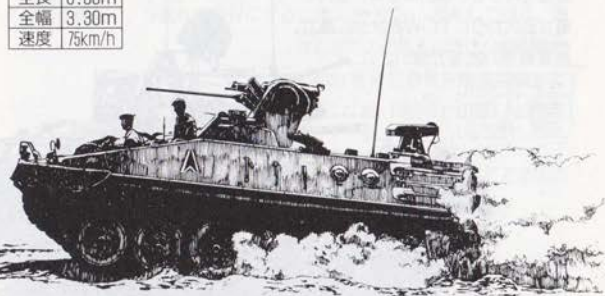
ヘンジェル マルダー-A1 HENSCHLER MARDER A1

1959年、HS-30の車体を利用して開発された、西独の歩兵戦闘車である。各国の歩兵戦闘車の中では最

M	I	③	7	10	25
35\$		10K		60×3	
		2			

も重い車両であるが、機動性は高い。砲塔、車体共に防弾鋼の溶接構造であるため、浮航性はない。しかしアルミ合金に比べ防御力も高く、前面は20mm徹甲弾でも貫通しない。乗員室には6名乗車でき、側面の銃眼から射撃できる。

全長	6.80m
全幅	3.30m
速度	75km/h



あつしこまつ 三菱/小松 73式装甲車

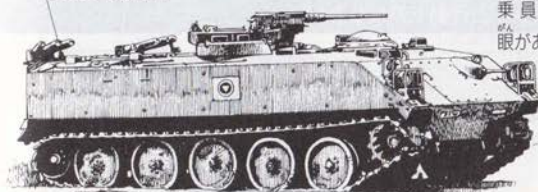
MITSUBISHI/KOMATSU TYPE 73 ARMOURED PERSONNEL CARRIER

1967年から試作が開始された。60式装甲車の後継である陸上自衛隊の兵員輸送車。車体は防弾アルミの

M	I	④	6	0	10
35\$		10K		30×2	
			6		

全長	5.80m
全幅	2.90m
速度	60km/h

溶接構造で、浮航性を持つ。武装は12.7mm機関銃と、現代の車両には珍しく車体前面にも機関銃を持つ。また



乗員室には銃眼があり、乗車中の歩兵は射撃を行うことができる。

BMP-1 BMP-1

1960年代に入り、BTR-50の代替えとして開発された車両。1967年のモスクワ・パレードで初めて現

M	I	④	6	5	10
25\$		10K		50×2	
			9		11

れた。76mm低圧砲、サガー-ATGM(対戦車ミサイル)を搭載し、アルミ合金製全溶接構造の車体、300馬力の4サイクル水冷ディーゼルエンジンといったスペックは、西側に少なからずショックを与え、今日に影響を残した。

BMP-2 BMP-2

1982年のモスクワ・パレードに現れた、ソ連の歩兵戦闘車。BMP-1の改良型で、砲塔が2名用になり、

M	I	④	6	5	20
30\$		15K		50×2	
			8		

76mm低圧砲に換えて30mm機関砲を装備。対戦車ミサイルも新型のAT-5スパンドレルを持っている。車体は防弾鋼の全溶接製で、BMP-1よりも頑丈になり、浮航性も向上している。また、銃眼を持ち車内より射撃できる。

全長	6.70m
全幅	2.94m
速度	60km/h



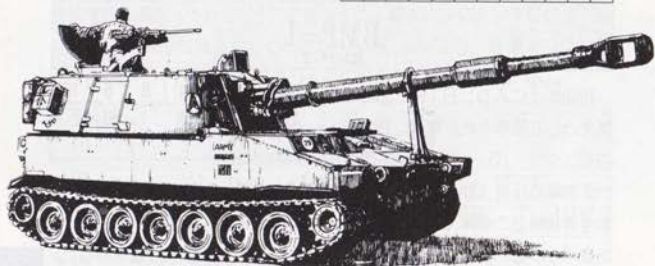
ユニット

じ そう ぽ う 自 走 砲

自走砲は砲を装備したものと、ロケット弾を装備したものの2種類がある。また、間接攻撃ができるという大きなメリットの代わりに、対地、対空共に防御力が弱く、その上、反撃するための直接攻撃武器を持たないものが多いので、必ず他のユニットと行動を共にしたい。

BMY M109A3 BMY M109A3

全長	9.12m	U	-	③	6	0	15
全幅	3.10m	50\$		15K		35×2	
速度	56km/h	1	2	3	5		10



1950年代後半に開発が始められ、米陸軍のみならず世界で最も使用されている155mm自走砲である。自走砲の第二世代と呼ばれるこの車両の特徴は、最初から専用の設計の車体を持ち、完全密閉の全周旋回の砲塔と優れた機動性である。A3型は、A2型にFCSの自動化、射程の延長などの改良を行ったタイプである。

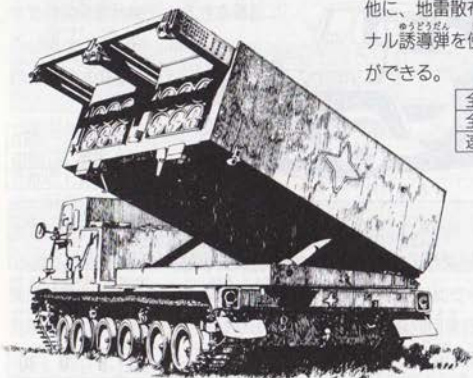
BMY M110A2 BMY M110A2

1957年よりバッカー社が開発された、米陸軍の203mm自走砲である。M107と同じ車体で、空輸性を考慮した車体の設計になっている。このため砲は完全にむき出しで、防御力、対候性は失われ、M109にくらべると時代遅れの設計である。A2型は、射程不足を改良するため長い砲身に変更し、ロケット推進弾も発射できる。

LTV MLRS LTV MLRS

1979年に試作され、1981年から量産に入った米国の軌道式多連装ロケットランチャー。ロケットランチャーは命中率は低いが、そのために起きる分散効果が地域制圧には向いている。射程は約30kmで、12発のロケット弾を搭載する。通常のロケット弾の他に、地雷散布弾、ターミナル誘導弾を使用することができる。

U	-	③	6	0	5
60\$		15K		48×2	
1					



全長	6.97m
全幅	2.97m
速度	64km/h

ARE 155 AUF1 155mm GCT ARE 155 AUF1 155-mm GCT

1973年のサトリー兵器展示会に発表された、フランスの155mm自走砲である。車体はAMX-30主力戦車を使用し、中央に砲塔(固定型と旋回型がある)を搭載している。最大射程は23,500mで、自動装填装置により毎分8発を発射できる。この発射速度は、世界で最も速く、それゆえ、世界で最も強力な自走砲だと言える。

U	-	②	6	0	20
50\$		15K		45×3	
	4			10	

しき が た 54式1型 122mm自走砲 TYPE 54-1 122-mm SELF-PROPELLED GUN

1984年頃現れたもので、63式兵員輸送車の上に、54式122mm榴弾砲を搭載した中国の自走砲である。砲塔はなく、兵員室の上部をオープンにして、そのまま砲を載せている。射程は最大で11,800mである。この様な自走砲のつくりは第二次世界大戦中によく現れた。とにかく、間に合わせの車両であると言えるだろう。

U	-	③	6	0	0
40\$		10K		45×2	
			7		

BM-21

BM-21 122mm MULTIPLE ROCKET-LAUNCHER

現在存在する多連装ロケット発射機は、第二次世界大戦中にソ連が開発したカチューシャと呼ばれたものが最初だった。このBM-21は、カチューシャから続く、ソ連の伝統を受け

継いだものである。Ural-375 D 6 × 6トラック

に搭載された、122mm40連装のロケット

弾は、1964年に出現して

以来、現在もまだ主力である。



U	-	⑤	6	0	5
40\$		10K		70×2	
			7	8	11

全長	7.35m
全幅	2.69m
速度	75km/h

2S1 (M1974) 122mm 自走砲

2S1 (M1974) 122-mm SELF-PROPELLED GUN

1974年ポーランド陸軍のパレードで初めて現れた、ソ連初の本格的自走砲。MT-LB多目的装軌車の車体に旋回式の砲塔を搭載しており、浮航性がある。射程は最大15,400mである。ソ連の用兵思想により自走砲も対戦車防衛任務を負い、直接射撃用のHEAT-FS

弾も持つ。



U	-	④	6	0	10
45\$		10K		50×2	
			8	9	11

全長	7.30m
全幅	3.00m
速度	60km/h

2S3 (M1973) 152mm 自走砲

2S3 (M1973) 152-mm SELF-PROPELLED GUN

1970年代に入って開発、装備されたソ連の自走砲。2S3に比べると供与された国は限定され、秘密も多い。車体は「ガネフ」の発展型で、元比べて全長が短くなっている。通常の射程は18,500mで、HE延長弾を使えば24,000mまで伸びる。また核砲弾を発射する能力もある。

U	-	③	5	0	15
70\$		15K		30×3	
			7	8	

日本製鋼/三菱 75式自走155mm榴弾砲

NIHON SEIKO/MITSUBISHI TYPE 75 155-mm SELF-PROPELLED HOWITZER

1970年に開発が開始された、日本で最初の本格的自走砲。M109を参考に設計された可能性も高いが、射

程は最大19,000mとM109を上回っている。車体、砲塔共に防弾アルミの全溶接製で、自動装填機構を持つ。ただ、装薬は人力で入れるので、持続する発射速度は毎分1発である。

U	-	③	5	0	15
50\$		15K		30×3	
			6		

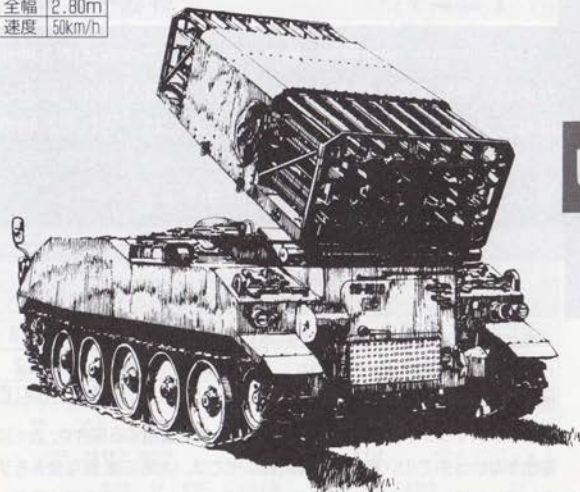
日産/小松 75式130mm自走多連装ロケット弾発射機

NISSAN/KOMATSU TYPE 75 130-mm MSSR

集中使用による圧倒的多量の弾丸を目標に送り込むことを目的とした、ロケット弾発射機を1965年から

開発し始めた。これを73式装甲車（微妙に違うが）に搭載したのが、本車である。ロケット弾を30発発射機に持ち、最大射程は14,500mである。単発及び斉射が可能で、斉射の場合全弾撃ちつくすには約12秒かかる。現在、日本には、射程の長いロケット弾発射機が存在していないが、将来的には、MLRSの導入が決定している。そのとき、この75式ロケット弾発射機がどういう配置になるか興味深い。

全長	5.80m
全幅	2.80m
速度	50km/h



Qユニット

けんいんぽう 牽引砲

この牽引砲ユニットは、ほとんど自力では移動できない。移動力はわずかに1だ。そのため、輸送トラック、CH-47チヌークなどで、戦場へ運ばなくてはならない。もっとも戦場へ送るのなら、自走のできる兵器の方がいいだろう。牽引砲は、首都などの守りに使った方が賢明だと言える。

たいくう 対空ミサイル SURFACE TO AIR MISSILE

Qユニット唯一の兵器である。ホークや、ゲインフルのユニットが生産できる国ならば、それを使った方が

Q	-	⑦	1	0	0
40\$		10K		40×1	
2	3	4	6	7	10

よいだろう。(もっともホーク、ゲインフルの生産国でこのユニットを生産できる国はほとんどないが) 移動力、防御力とも皆無に近いこのユニットも、価格が大変安いので、貧乏な国には持ってこいの兵器であろう。

Tユニット

ひそうこうしゃりよう 非装甲車両

Tユニットには、補給部隊、輸送トラック、工作部隊の3種類があり、それぞれ、防御力も、攻撃力もかなり低く、戦力とはなりえない。だが、これらのユニットには、それぞれ特性があり、他のユニットでは真似のできない場合もある。使い方しただが、ゲーム上では、大変重要なユニットだ。

ほくきゅうぶたい 補給部隊 SUPPLY UNITS

地上ユニットの他にV、Hユニットなど、一部の航空ユニットに対し、燃料、弾薬を補給するユニット。空

T	-	⑤	6	0	0						
15\$		10K		100×2							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

港が少ないマップで、ヘリコプターやVTOL機を運用する場合や、近くに都市がない地形での、長期に渡る戦闘などでは、大変に重要な働きをする。できれば、前線から少し離れた場所に、護衛と共に配置するとよい。

けんそう 輸送トラック TRANSPORT TRUCK

兵員を輸送可能なユニットでは、最も安価なユニット。またQユニットを輸送できる数少ない輸送

T	Q	⑤	8	0	5						
10\$		10K		80×2							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ユニットでもある。だが、いかに安くとも、防御力、攻撃力共に低く、さらに道路、建物以外では、移動スピードが半分以下に落ちてしまう。使い方が意外と難しい。



こうさくぶたい 工作部隊 WORK UNITS

建物の増築(耐久度を上げる)ト一チ力(要塞)の設置・撤去、鉄道の設置・撤去、橋・道路・建物の修

T	-	③	4	0	5					
40\$		15K		50×2						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

復など、様々な工事が行える特殊なユニット。自国の経済を潤すため、また工業力を上げるためには、歩兵で都市や、工場を占領するよりも、工作部隊が耐久度を上げた方がはるかに早く、軍事費も工業力も上がる。

Eユニット

てつどう 鉄道

あまり利用する機会はないかもしれないが、これも輸送ユニットの一種だ。だが、移動力も輸送力も大きく、長期戦になりそうなきは戦場まで線路を敷いてもいいかもしれない。

てつどう 鉄道 TRAIN

鉄道ユニットは鉄道の敷いてある地形が、建物の地形でしか移動できない。しかし、移動力は9と大きく、また、地上部隊を4ユニットまで輸送できるので、もし、鉄道の敷いてあるマップでゲームを行う場合は、これを大いに利用することを勧める。

E	S	⑨	9	0	0					
2000\$		300K		90×5						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

1 ユニット

ほへい
歩兵

スーパー大戦略では、歩兵と戦闘工兵の2種類の1ユニットが登場する。大きな違いは、攻撃力と移動力にある。

ほへいぶたい 歩兵部隊 INFANTRY

おそらく、このSUPER大戦略の真の主役は、この歩兵部隊と戦闘工兵であろう。いくら強い戦闘機でも、どんな無敵の戦車だろうとも、この歩兵部隊の価値にはかなわないからだ。価値とは何か。それは占領である。都市や工場はもちろん、首都でさえ占領できる。

だからといって歩兵をそんな大事にしなくても構わない。ユニット中で最も安価なユニットも歩兵部隊だからだ。

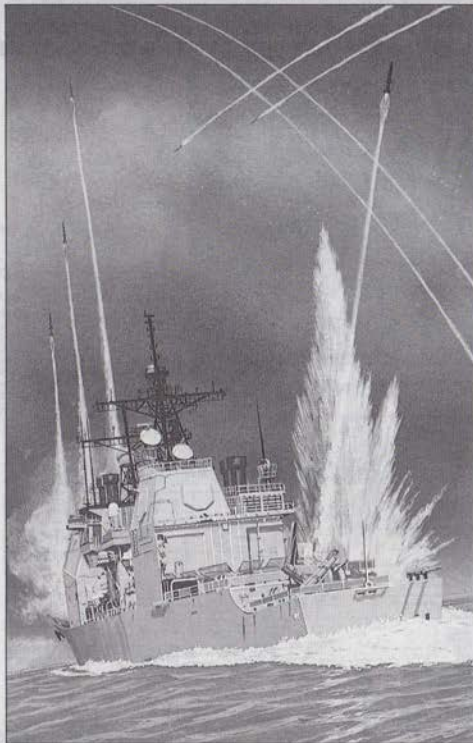


I	-	⊕	3	10	20						
10\$		5K		80×1							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

せんとうこうへい 戦闘工兵 SPECIAL ENGINEER

移動力、防衛力共に、歩兵に比べて劣っているが、その武装こそ戦闘工兵の戦闘工兵たるゆえんである。戦車にはATM(対戦車ミサイル)、航空機にはSAM(対空ミサイル)、非装甲の敵にはマシンガン、その上、射程は短いとはいえ間接攻撃が可能な迫撃砲まで装備している。まさに、歩く要塞である。

I	-	⊕	2	5	10						
20\$		5K		70×1							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12



艦船ユニット

NAVY

CONTENTS

D 艦

艦船

Dユニット

水上艦

艦船ユニットは、海の多いマップでは特に活躍するだろう。例えば、海を越えて上陸を行うときなど、海上支援なしでは不可能に近いからだ。また、合流・分散ができない代わりに修理ができる。だから、ダメージを受けても修理すれば、経験値は変わらずに回復する。ただし、決して安くはないので、必要かどうか、よく判断して生産した方がいいだろう。



航空母艦

AIRCRAFT CARRIER

D	X	⑩	5	30	40
-S	-K			250×90	

※艦載機とは、Fユニットの「F4ファントム、F-14A」、Vユニット、Aユニットの「A-4M、A-6E、A-7Eコルセア、F/A18A、S. エタンダール、Su-17」、Hユニットを指す。



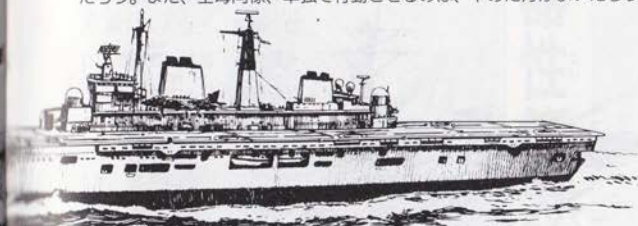
全ユニット中最大の大きさを

誇る。また、このユニットだけは生産することができない。つまり、最初からこのユニットが登場しているマップを選ばないと使うことができないのだ。また、航空母艦では、艦載機(※)を搭載・補給することができる。だが、いくら強力な航空機を載せているからといって、単独で行動するのはやめた方がいいだろう。もしものときは大きな痛手を食ってしまう。

ヘリ空母

HELICOPTER AIRCRAFT CARRIER

生産できる艦船では最も大きい。	D	V	⑩	5	25	30
また、VTOL、ヘリコプターの搭載・補給が可能なので、航空母艦ほどではないが、空港の少ないマップや、海の多いマップでは、必要となるだろう。また、空母同様、単独で行動させるのは、やめた方がいいだろう。	6400\$		880K		200×80	
	1	3	4		8	



巡洋艦

CRUISER

空母の護衛の一番手は、この巡洋艦であろう。1度に12発発射できる対空ミサイルや、艦船中最強の防御力など、まさに海の守り神的存在である。だが、生産できる国が少なく、価格も非常に高いことから、駆逐艦の方を生産する国も多くなるだろう。機会があれば、1度は使ってみてほしいユニットである。	D	-	⑩	6	30	50
	4800\$		540K		150×60	
	1		4		8	



くろくかん
駆逐艦

DESTROYER

巡洋艦と同じ、最大射程6の対艦

ミサイルと対空ミサイルを装備し、

また、巡洋艦と共に、艦船中最高の

速度を持つ。多少、防御力と耐久度が巡洋艦にくらべ劣るものの、2/3の価

D	-	10	6	25	30
---	---	----	---	----	----

3200\$	360K	100×50
--------	------	--------

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----

格で生産できるので、買より
量で勝負したい人には購入
を勧める。また、燃料が切れ
ないかぎり、十分に単独行
動も可能である。



ようりくかん
揚陸艦

AMPHIBIOUS WARFARE VESSELS

艦船中で最も安価で、最も弱く、最も

遅いのがこの揚陸艦である。だが、

この艦は地上ユニットを輸送できる

のである。また、地上ユニットに対

して間接攻撃を行うことができるため、

上陸時における支援攻撃が行

える。このため、上

陸作戦を展開する

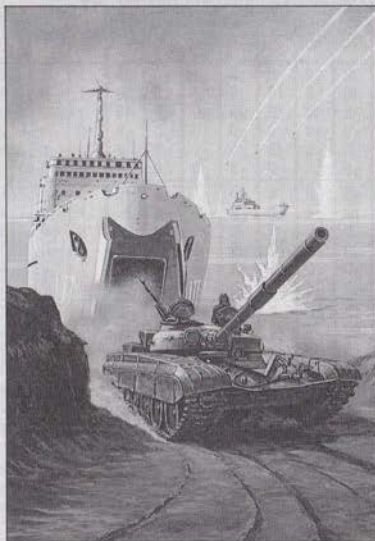
ときは、まさに主役へ

と変身する。

D	S	10	4	20	10
---	---	----	---	----	----

1500\$	200K	150×50
--------	------	--------

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----



武器性能表

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
兵器名	武器名	対空 力	対 装 甲	非 装 甲	対 艦 力	空 数	地 回	価 格	射 率	命 中	装 備
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF

①兵器ユニット名 ②搭載武器名 ③対空攻撃力

④対装甲車両 攻撃力 ⑤対非装甲車両 攻撃力

⑥対艦船攻撃力 (→取扱説明書：55ページ)

⑦対空攻撃回数 航空機に対しての攻撃回数

⑧対地攻撃回数 その他の兵器に対しての攻撃回数

⑨価格率 弾薬1発当たり、補給するのに使う工業力

⑩射程 ⑪命中率(1/10) (→取扱説明書：42ページ)

⑫装備可能武器パック(→取扱説明書：55ページ)

※攻撃回数

各武器には、攻撃回数というものがあります。これは攻撃のときに何回攻撃するかを定めています。例えばこれが2だと、1機の攻撃で2機の敵を破壊できる可能性があるということです。

D

とうさい ぶ き いちらんひょう
搭載武器一覧表

GUN 機関砲	AAM 空対空ミサイル	ASM 空対艦ミサイル	SAM 地対空ミサイル	ATM 対戦車ミサイル
20mmバルカン	サイドワインダー	マベリックASM	ソングスター	
30mmDEFA	スパロー	AS30 ASM		
27mmモーゼル	フェニックス	ハーブーンASM	チャバラSAM	ヘルファイア
TYPE23-2	マトラマジック	ケリー ASM	ホーク SAM	HOT ATM
23mmGSh	シュベルマトラ	コルモランASM	レイピア SAM	TOW ATM
23mmガトリング	マトラR530	エグゾセ ASM	R440 SAM	スパイラルATM
25mmガトリング	スカイフラッシュ	マーテル ASM	ローランドSAM	スパンドレル
30mmガトリング	シャフリル	ケグラール ASM	81シキ SAM	ミラン ATM
23mmGP-9	PL-2	ガブリエル	SA4 SAM	ATM
20mmMk12	PL-5	キングフィッシュ	SA6 SAM	
30mmADEN	アフィッド		SA8 SAM	
23mmNR23	アベックス		SA9 SAM	
30mmNR30	アクリッド		SA13 SAM	
20mmキャノン	アラモ		SAM	
23mmキャノン	エイモス	CANNON 砲	SAミサイル	
25mmキャノン	アトール2	73mmホウ		
30mmキャノン		76mmホウ	BOMB 爆弾	他
35mmキャノン		85mmホウ		
37mmキャノン		90mmホウ	Mk82バクダン	
40mmキャノン		100mmホウ	スマートバクダン	ハクゲキホウ
CIWSバルカン		105mmホウ	EU2 バクダン	グレネード
ライフル		106mmホウ	454kバクダン	MLRSロケット
マシンガン		115mmホウ	250kバクダン	130mロケット
Sキカンホウ		120mmホウ	ロケットダン	HEATダン
		125mmホウ	500kバクダン	122mロケット
		122mmArt	Mk83バクダン	シザイ
		152mmArt	ロックアイ2	タンク
		155mmArt	M117バクダン	
		203mmArt	クラスタバクダン	
		ホウ	Bバクダン	
	SSM 艦対艦ミサイル			
	タイカンミサイル			

※シザイ、タンクは武器としては使えません。

「シザイ」

「シザイ」は「コウサクブタイ」が「工事」を行うときに使われます。（「工事」を1回行くと、「シザイ」が1つ減ります。）

「タンク」

「タンク」1つにつき、燃料が「15」増加します。「タンク」は、自動消費されます。（機体の燃料が満タンの状態から「15」減ると、タンクが自動的に1つ減り、燃料が「15」増えます。）

取扱説明書・兵器カタログ イラスト

- ・表紙イラスト 米島義明
- ・兵器イラスト 長谷川正治
- ・イラスト協力 青井邦夫
伊藤 守

SUPER大戦略・兵器カタログ

このゲームに対するご意見やご感想を、下記までお寄せください。

株式会社 セガ・エンタープライゼス
 〒144 東京都大田区羽田1-2-12
 お客様サービスセンター
 ☎03(742)7068(直通)